

2012 年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム

渡航報告書

目次

1. 渡航者
2. プログラム日程
3. 渡航者の報告

1. 渡航者

遠藤英子 教授 (基礎看護学研究室)
 山城久典 准教授 (精神看護学研究室)
 津野陽子 助教 (地域看護学研究室)
 天野里奈 助教 (小児看護学研究室)

2. プログラム日程

洛陽訪問スケジュール (2012年8月)

日期	時間	内 容		備 注
2012年 8月1日 水曜日	20:40	洛陽到達 牡丹城澳門食街 夕食		MU5527 上海→洛陽 21:10時到達 友誼賓館宿泊 趙傑剛出迎え
8月2日 木曜日	08:00-08:40	朝食(友誼賓館)		
	09:00-16:30	竜門石窟、関帝廟、白馬寺観光 昼食:随時		日本語ガイド
		山城久典准教授、津野陽子助教 王朝娟 趙傑剛同行	遠藤英子教授、天野里奈助教 史素玲 袁景茹ご一緒	
	16:30-18:30	鄭州に行く 王朝娟 趙傑剛同行	自由活動 日本語ガイド	
	18:30-19:30	鄭州で夕食	洛陽で夕食 史素玲 袁景茹	
8月3日 金曜日	07:00-07:40	朝食(鄭州大酒店)	朝食(友誼賓館)	
	08:00-12:00	河南省看護教育学会にて講演 山城久典 准教授 津野陽子 助教 一人90分(通訳あり)	09:00-10:00 病院見学 救命救急センター・ICU、NICU、小児 病棟 10:10-11:30 教員学生座談会(総合 ビル3階小会議室)	
	12:10-13:30	昼食(ホテル)	昼食	
	13:30-16:00	洛陽に向かう	河南科学技術大学開元キャンパスと 新区病院見学	
	16:20-18:00	休憩		
	18:00-20:00	歓迎パーティー(新友谊大酒店)		張書記等
8月4日 土曜日	07:00-08:00	朝食(友誼賓館)		
	08:00-09:00	國際交流学会開幕式		総合ビル3階学术交流ホール
	09:00-11:30	遠藤英子教授 講演 「日本における Specialist としての看護師教育」(11:00-12:00)		
	11:30-12:30	昼食(京安牡丹城賓館)		
	13:30-17:40	山城久典 准教授「精神医療の歴史と精神科看護の実際」(13:30-14:30) 津野陽子 助教「働く世代の健康課題と健康戦略」(14:30-15:30) 天野里奈 助教「日本の子育てと看護師の育児支援」(16:40-17:40)		総合ビル3階学术交流ホール
18:30-20:00	送別パーティー(友誼賓館)		馮院長 王院長 李群 王朝娟 趙傑剛 史素玲 袁景茹 等	
8月5日 日曜日	08:00-09:00	朝食(ホテル)		
	9:00	洛陽空港へ(10:20 洛陽→上海)MU5390		趙傑剛お送り

洛陽（河南科技大学・第一病院訪問）との交流を終えて

基礎看護学研究室 遠藤英子

訪中は短期大学時代の 1996 年をはじめとし、北京・ハルピン・内モンゴル・新疆ウイグル自治区・西安と短期大学時代に国際交流の一貫として行かせて頂いたことがきっかけでいろいろな経験をさせていただいた。看護学科になり、久々に一昨年、昆明医科大学を訪問し、今回は洛陽に行かせて頂いた。中国はどこに行っても、長い歴史と人間の営みの状況を見ることができ、面白い。各地域の特徴はあるが、どこに行っても食は美味しく、興味深く楽しむことができる。思いのほか、西安とは近かった。シルクロードの出発点が西安だと思っていたが、最近、その歴史は塗り替えられ、新たな史書の解明によると、洛陽・鄭州であると言われている。

また、『毛主席語録』として知られる赤い手帳が高い値で売買されているということであった。紅衛兵が振りかざされるシーン、それは文化革命を象徴する光景であり、あまり良い印象はない。そして、国民すべてが携帯することを強要された時期も遠ざかり時代の変化を感じた。



洛陽は落ち着いた街であった。宿泊したホテル前の細長い公園で毎朝、5 時ごろ～8 時過ぎまで、多くの市民が思い思いの曲に合わせて踊り、太極拳をしている者、鞭をならしている者、フラフープをしている者など様々に楽しんでいる。女性が圧倒的に多いようだ。中国の定年は 55 歳、「することがないので」と言う見方もあるようだ。

今回の交流の河南科技大学第一附属医院では「国際看護学会」と称して、2012 年 8 月 3 日 15 時～5 日までの 2 日半にわたる大掛かりな学会であった。英国ノッティンガム大学から 2 名、台北市立万芳医院 1 名、台湾大学医療センター 1 名、そして東邦大学看護学部から 4 名の発表であった。学会場の玄関の電子掲示板(昔なら赤地に白の横断幕だった)のタラップには、我々の学校と名前も紹介されながら「熱烈歓迎」の電子横断幕が出ていた。我々の発表の最後に会場からの質疑応答、と云うことで、会場から出てきたことは、「日本の看護師は独身がなぜ多いのか?」「看護師の給与は?」「他職種と比較し看護師の社会的地位は?」など、日本の現状に関するたくさんの質問が出、時間切れとなった。メモで頂いてきたので、さらに翻訳し、回答を入れ、今回お世話・通訳して頂いた趙さんにお返ししようと考えている。日本に対し、興味を抱いて頂き、また、歓待して頂き感謝いたします。



そして、暑期中、世界遺産の「龍門石窟」のご案内、鄭州での看護学会へのご案内など、病院副院長・看護部長はじめ趙さん、関係者の方々に感謝いたします。

河南科技大学との国際交流に参加して

精神看護学研究室 山城 久典

平成24年8月1日から5日までの5日間、中国河南省の洛陽市と鄭州市を訪れ、河南科技大学との国際交流に参加させていただきました。3日は鄭州市で河南省看護学会主催の「河南省老年病、五官科、健康教育、糖尿病看護学会」で、また、4日は洛陽市で河南科技大学第一附属医院主催の国際交流学会で講演する機会を得ました。鄭州市の学会は日本風に言えば河南省看護教育学会で、河南省全域から看護職の皆さんが集まって毎年開催されているそうです。洛陽市の学会では、東邦大学看護学部から参加した4人の教員だけではなく、英国や台湾から来られた講師の方々の講演もありました。二つの学会ともに講演後の質問が多く、その内容は多岐にわたるものでいた。二つの学会とも参加者された方々の多くは日本に行ったことがなく、この機会に日本の看護に関する知識を熱心に吸収しようとする印象を受けました。

私の講演テーマは「(日本の)精神医療の歴史と精神科看護の実際」で、前半は主に明治時代以降の精神医療にまつわる史実をお話しました。その後、後半では現在の精神科看護の要点と最近の精神保健医療福祉の活動状況などをお話しました。国や地域により精神医療の発展の経過は異なりますし、また、文化に結びついた症候群については理解することがかなり困難な場合もあります。そのため、講演の内容をどれくらいお伝えすることができたのか不安な点もありましたが、講演後の参加者の質問に助けられ、河南省の看護師の方々の関心の所在が少しは解ったように思います。短期間の滞在では、交流先の事情を詳細まで理解するのは困難ですが、交流することにより双方がともに刺激を与え合うことは国際交流の大きな意義だと感じました。ときには、誤解されることもあるかもしれませんが、相互の信頼関係があれば徐々に理解を深めていくことができると思います。

洛陽市は悠久の古都として知られており、鄭州市は河南省の省都で漢文化発祥の地である中原の中心に位置しています。そのような歴史的背景があるからでしょうか。院長の馮笑山先生や王朝娟看護部長、通訳の趙傑剛さん等々、今回の交流でも多くの方々からの歓待を受け、歓迎および送別のパーティーでは、他国の人をもてなすホスピタリティを十分に感じました。また、複数の方々から「まだ我々は未熟であるから、海外の皆様のお力を借りながら発展したい」という内容のスピーチをお聞きました。その発言に込められた謙虚な態度はとても印象的で、私自身が日本国内でこのような発言を聞く機会はほとんどないと思いました。この経験は私が今回の交流で得られた刺激的な出来事の一つでした。

今後も有意義な国際交流が続いていくことを衷心より願っています。

河南科技大学との国際交流報告書

地域看護学研究室 津野陽子

2012年8月1日～5日の日程で中国の洛陽にある河南科技大学と第一附属病院、鄭州での看護教育学会などへ参加させてもらいましたので報告いたします。5日間の日程であったが前後2日は移動日のため、実質3日間の中で大変充実したスケジュールを組んでいただいていた。私自身は中国訪問が初めてであったため、中国の生活習慣やワークスタイルなどにも興味関心を抱いての訪問でした。主に講演と病院見学について報告いたします。

州都である鄭州での河南省看護健康教育学会と、河南科技大学での国際交流学会での2回講演の機会をもらいました。いずれも歓迎と熱心に聴講をしてくださる中で、壇上での講演は緊張しました。「働く世代の健康課題と健康戦略」というテーマで、メタボリックシンドローム、がん、ストレスに関して取り上げて講演しました。その後の質疑応答では、「新人看護師の離職を防ぐための方法は?」「自殺者の割合はなぜ男性のほうが多いのか」「研究フィールドはどのようにして獲得するのか」などの質問を受け、身近な話題から、日本の状況にも関心を持ってもらったと思います。質問が挙手だけでなく、メモ用紙に書き会場係に手渡され次々に壇上に届いたことに驚きました。ただ、時間の制約があり質問の一部にしか答えられなかったことは残念で、こちらも参加者の方の意見などを聞いて中国の状況を知りたかったとの思いが残りました。

病院見学は、新区にある新病院を見学させてもらいました。健康管理センターとして健診のためのフロアがあり、一般受診者用とVIP専用の健診場所が設けられており、健診ビジネスが拡大していることが伺えました。待合室では三国志のキャラクターを用いた糖尿病の健康教育用のアニメが流されていたり、健康教育用の部屋あるフードモデルは中華料理食材であったり、病院内でも中国の文化を感じられました。

また、滞在したホテルの前は広場になっており、朝の6時過ぎになるといくつものグループが音楽を流して健康体操を毎日していました。働いている人も出勤前にプールで泳ぐなど軽く運動しているそうです。朝食を外で摂り午前中勤務、お昼休みは季節により変動しますが2時間半～3時間あり自宅に戻り昼食とお昼寝をしてから午後の勤務が一般的なスタイルとのことでした。職場と住居が近接していること、生活の中に仕事と同じように運動、食事、休養がきちんと組み込まれていることに感動しました。

滞在中は趙先生をはじめたくさんの方より歓迎を受け、大変お世話になりました。趙先生の通訳のおかげで無事講演ができ、多くの方々と交流できましたこと感謝いたします。夕食の席も何度も乾杯の音頭がとられ、お料理を囲みにぎやかなおもてなしを受け大変楽しい時間を過ごしました。今回はNottingham大学と台湾大学からも先生方が来ており、まさに国際交流をさせてもらいました。このような貴重な機会を与えていただいた大学とご調整いただいた国際交流委員会の皆様に感謝いたします。

河南科技大学での国際交流報告

小児看護学研究室 天野 里奈

はじめに

今年度、国際交流委員会のメンバーとなり、海外の大学との交流の場に関わる機会をいただいたことは、私にとって、様々な意味で視野を広げる機会となりました。そして今回、河南科技大学訪問という機会をいただいたことに大変感謝しています。

中国・洛陽での交流はとても刺激的で、他国の文化的、社会的背景を知ること、そのうえで交流を図ることの必要性を強く感じました。

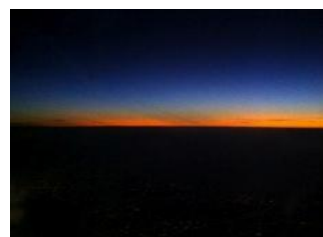
これから、その訪問の様子を写真とともに報告させていただきます。

羽田より一路、洛陽へ

昨年までは北京空港で中国国内線への乗り継ぎでしたが、今年は上海虹橋空港での乗り継ぎでした。拙い英語を駆使し、どうにか国内線ターミナルへのシャトルバスに乗り込み、15分ほどで到着。約7時間のトランスファー待ちを経て、洛陽空港に向かいます。



上海虹橋空港内のレストラン
あのスターに似ている気が…



洛陽に向かう途中、飛行機の窓から
大地の広さを感じます

到着時、洛陽空港はすでに少し霞んだ夕闇に包まれており、ロビーで趙傑剛先生が出迎えてくださいました。無事に洛陽に降り立ち、ほっとしたところで、中国流ファミリーレストランで夕食をいただき、宿泊先へ向かいました。

中国の歴史に触れる

2日目は、朝から九朝の古都、洛陽にある名所旧跡を巡りました。霧のかかったような曇り空で気温は29℃程度。「今日は曇りですね。」と話す一同に対し、同行して下さる通訳の魏麗娟さんは「今日は晴れですよ！」と一言。日本で見るようなすっきりと晴れた青空はなかなかお目にかかれないのだそうです。魏さんは日本で生活されていたこともあり、2日目・3日目ととても流暢な日本語で丁寧に通訳してくださいました。



石窟より伊河を望む

龍門石窟は、北魏の孝文帝が洛陽に遷都した494年から造営がはじまり、その後400年に渡り造営が続けられた仏教遺跡です。体高数cmの仏から17mの盧遮那仏まで、大小さまざまな仏像の姿

を見ることができます。繰り返される王朝や宗教に纏わる戦乱、文化大革命によって、顔や体を破壊された仏像がたくさんありますが、逆にその無残さが美しさを際立たせているように感じました。



一番左は龍門石窟の中で
もっとも美しいとされている像だそうです
全てを観るためにはかなりの距離を歩きます

関帝廟は関羽の首塚。また、白馬寺は中国最古の仏教寺院で、明、清時代に改築されたそうです。とても美しい建物と荘厳な仏像の数々に心洗われます。



左は関帝廟の中にある関羽の像
一番右は白馬寺の中にある
阿弥陀如来の像
心が穏やかになります

「若い力」と「目から鱗」

3日目、一同は二手に分かれて行動しました。一方は、鄭州で行われた河南省看護教育学会にて講演を行い、一方は、病院・キャンパス見学と教員学生座談会に参加しました。

まず、臨床医学院開元キャンパスの見学では医学院で教鞭をとりながら、現役ナースとして現場で働く師長さん達が学内の案内係として集合し、一緒に校舎内を歩き、実習室や教室を見学しました。中国全土の看護系学校が参加する看護技術を競う大会で優勝するほどの徹底した教育が行われているようです。看護学部のエリアは東邦大学とさほど変わらない広さでしたが、他学部の校舎、キャンパスの敷地は洛陽の中心部にあるにもかかわらず、とても広大でした。



河南省老年病・五官科・健康教育・糖尿病看護学会で発表される山城先生



こちらの大学でも
まだ戴帽式が行われています
とても厳かな雰囲気の写真です

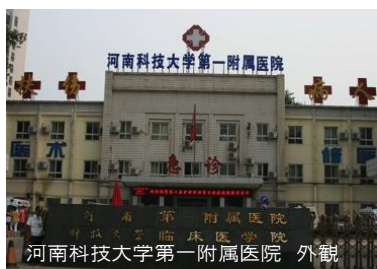
とても整理された実習室
黒板には注射に関する技術手順が
書かれていました



開放的で広々としたキャンパス！

その後、病院見学では日本との院内環境の違いに驚きました。小児病棟内は家族、家族、家族…。両親の買ってきたご飯を食べる幼児。大きな声で泣いてぐずる乳児を抱いて歩く母親の傍らには、点滴ボトルがぶら下がったスタンドの上部を持って歩く父親。中国での子どもの看護についてお話を伺いたかったのですが、時間の都合で見学のみとなり、大変残念でした。

私が一番感心したのは、学生達の笑顔と積極性です。座談会には、4・5年生の学生が出席していたのですが、目が合うとニコニコと笑顔を返し、質問の際にはハキハキと述べ、積極的に手を挙げる人が何人もいました。



看護交流座談会にて
(最前列左側より)

袁景茹副看護部長
筆者
王宏运臨床医学院副院長
兼 第一附属医院副院長
遠藤教授
史素玲副看護部長

新区病院見学では、インカムを装着し、鮮やかな赤い制服に身を包んだ女性が院内を案内してくれました。後から聞くと、案内係は病院案内専門の看護師とのこと。いくつかの条件をクリアした看護師が接遇教育を受けて働いているそうです。所変われば、看護師の役割も変わるものです…。



河南科技大学新区医院 外観
現在、開発途中のエリアに新しく
建てられた病院です
とにかく規模が大きい！

健診ビジネスの拡大に向けた準備
健康管理センター



4日目、8月3日～5日に開催されていた河南科技大学第一附属医院主催の国際交流学会で講演を行う機会をいただきました。今年は東邦大学だけではなく、台湾、イギリスの先生方も発表されていて、河南科技大学の看護の発展に対する熱意と姿勢は大変素晴らしいと思いました。そして、深紅の制服でお茶を配ったり、会場整理をしたり…と忙しく動いていたフロア係は、接遇に関する教育を受け

た学生でした。この日も学生の力を感じました。

私は「日本の子育てと看護師の育児支援」というテーマでお話をさせていただいたのですが、私が中国の社会背景・情勢や子育ての事情に興味を持つと同じく、日本のそれについて関心を持つ方が多かったようで、たくさんの質問をいただきました。時間が無く、みなさんとゆっくり意見交換する場を持ったことが残念ですが、看護はその土地、その社会、コミュニティで生活する人を理解したうえで、提供するサービスだということを改めて感じました。



趙先生の的確な通訳のおかげで安心して講演ができました。

英・ノッティンガム大学の先生方と控室にて



聴講していた看護師達は講演終了後、次から次へとメモに質問事項を書き、フロア係に手渡します。日本について知りたいという探究心が窺えます。

おわりに

全日程を通して、様々な場面で多くの方が私たちの訪問に関わる準備やフォローをしてくださっていました。心からのおもてなしや歓迎をいただき、感謝しています。馮笑山院長、王朝娟看護部長、趙傑剛先生、史素玲・袁景茹副看護部長、その他多くの方々に心から御礼申し上げます。大変貴重な経験をさせていただきました。



そして、個人的に深く感謝しているのが、自家用車で送迎をしてくださり、中国に住む人々の生活や河南科技大学について、また時には働くママのワークスタイルや子どものことについて、道々お話した看護師長の楊淑革さん、董帆さん。言葉は通じなくても、お2人の笑顔で安心することができました。

本当にありがとうございました。

国際交流委員会

委員長	近藤	麻理
副委員長	松永	佳子
委員	岡田	敦子
	角田	ますみ
	富岡	由美
	佐山	理絵
	天野	里奈
	三條	真紀子
	中澤	千佳

2012年度 東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム 渡航報告書

発行日 2013年2月
発行 東邦大学看護学部看護学科 国際交流センター委員会
〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20
TEL 03 (3762) 9881